

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第31回

神奈川県三浦市消防団

今回は、電車でぐるっと1時間、三浦半島先端の美しい街、神奈川県三浦市をお訪ねしました。

三浦市消防団は、神奈川県下では珍しく、農業や自営業の団員さんが多いそうです。

そんな三浦市消防団のお話を秋本消防団長、

板倉副団長、伊藤副団長、菱沼副団長、清水初声地区分団長、鈴木南下浦地区分団長、出口三崎上町地区分団長、藤田防災課長から伺いましょう。



後列左から、藤田防災課長、鈴木南下浦地区分団長、出口三崎上町地区分団長、清水初声地区分団長
前列左から、板倉副団長、秋本団長、ダニエル・カール、伊藤副団長、菱沼副団長(三浦市消防署で撮影)

三浦市の概要

ダニエル 三浦市は、海岸がきれいなイメージがありますが、まずは三浦市のことを詳しく教えてください。

藤田課長 三浦市の歴史は古く、市内には古代、縄文、弥生、古墳時代の遺跡が広く分布しています。



鎌倉時代初期には、和田義盛をはじめとする三浦一族が活躍し、また、この時代は三崎に桜、椿、桃の三つの御所が開かれ、源頼朝をはじめとして多くの要人が来遊しました。

江戸時代には港町としてにぎわい、次第に漁港としての整備が進み、これが近年における遠洋漁業基地としての都市形成の基礎を築いたといえます。



その後、昭和30年1月1日に三崎町、南下浦町、初声村が合併して「三浦市」となり現在に至っています。

基幹産業は農業、漁業であり、農産物でいえば大根やスイカ、それらは、水産物でいうとマグロや松輪サバなどが有名で、平成30年度に神奈川県が選定した新しい「かながわの名産100選」にも選ばれています。

ダニエル 美味しいものがたくさんあっていいですね！

伊藤副団長 最近だとミカン狩りやイチゴ狩りも盛んで、毎年その時期になると、県内外から多くの方が来られます。

また、油壺や城ヶ島など景色の良い観光名所も見どころの一つです。

ダニエル 美味しいものがたくさんあって、自然も豊かで、それに加えて都心から電車ですぐに行けるというのも魅力的ですね。

三浦市消防団の概要

ダニエル そんな三浦市の消防団の概要を教えてください。

秋本団長 平成31年4月1日現在、1本団、12個分団、条例定数225名に対して、実員数222名(うち女性消防団員1名)で構成されています。また、普通消防ポンプ自動車5台、小型動力ボ

ンプ付き積載車11台を所有しています。

三浦市にはもともと消防本部があったのですが、平成29年4月1日に横須賀市との消防広域化を行いました。

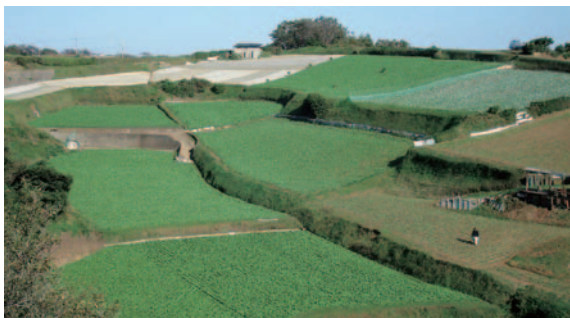
その後は、広域消防となった横須賀市消防局と連携して、市域の火災等の災害対応活動に従事しています。今日もぼや程度ではありますが、市内で火災が起きたため、消防局と消防団の幹部が連携をとりながら消火活動にあたりました。

ダニエル 広域消防となったあとも、組織間の連携をとって活動されているのですね。そうなるとうまます地域のことをよくわかっていらっしゃる団員さんの役割が重要になってきそうですね。

藤田課長 そうですね。特に三浦市の場合には約6割の団員が農業に従事しており、地元で働いているため、何かあったときの初動が早く、また、参集率も高いです。消防署の部隊が到着する前にすでに消防団が消火活動を始めているということもしばしばあります。

板倉副団長 農業をやっている団員は、畑などにおいて連絡を受けると、そのまま現場に直行するので、本当に出動が早いです。あっと思ったときにはもう出動しているくらいです。(笑)

ダニエル それは地域の方にとっても非常に心強いですね！ 近くで仕事をされていることで、現場にすぐ駆け付けられるというのはもちろんあると思いますが、それ以上に皆さんが



地域を愛していて、消防団活動にも意欲的に取り組まれていることがよくわかります！

ちなみに、私の生まれたカリフォルニアでは大規模な山火事が頻繁に起こる地域なので、どうしても山火事のことが気になってしまうのですが……。

この辺りは山火事が起こることはないですか？

伊藤副団長 大きな山がないので、山火事はないですが、片づけのために土手や畑で野菜を燃やしているときに火が移ってしまい、火が発生することがあります。

藤田課長 そういった土手や畑の火事の中には、周りに水利となる消火栓がないので、ものすごく長距離のホース延長をする必要があります。消防職員だけではできないので、団員がホースの延長を行います。その際、農家の方のトラックには、水やりや農薬散布のための貯水タンクが積んであるのですが、大きいものですと2t～3tくらいの容量があるので、それを水利に使わせてもらうことがあります。

また、トラックなどに積載した野菜の洗浄等に使用するため、畑地の各所に設置されている農業用水を活用して消火する場合があります。

これは農家が多いこの地域ならではの特徵ではないかと思います。





ダニエル 火消しに農業用水が使われているんですね。初めて聞きました!

消防署、消防団だけではなく、地域の方とも連携して消火活動を行っているというのはすごいことですね。

消防団内部のコミュニケーションについてはどうでしょうか。うまくいっていますか?

秋本団長 ばっちりです! そこまで広い市ではないので、三浦市全体で連携がとれています。

伊藤副団長 ちょうど各地域に二人ずつ本団の人間が配置されているので、その地域のことをよく知る人間が指揮を執ることができるのも私たちの強みだと思います。



団員確保について

ダニエル 条例定数225人に対し、222人と

いうとほぼ充足しているようですが、皆さんは充足率を保つためにどんな取組をされていますか。

菱沼副団長 三浦市では、2年前に初めて女性が一人消防団に入団してくれました。これを機に女性も消防団に入ってくれるようになれば団員確保につながると思います。

大隅さんという方なのですが、今日は残念ながらお仕事都合で来られませんでした……。

ダニエル 残念です! 会いたかった! どんなきっかけで入られたんですか?

秋本団長 彼女は長野県に住んでいたころ、住み込みで働いていた先のお母さんが消防団に入っていて、いろいろな話を聞いているうちに、自分もやってみたいと思うようになったそうです。

仕事の都合で三浦市に引っ越して来たのですが、三浦市で新しくできたお友だちも消防団員で、その繋がりもあり、入団を決意してくれました。

ダニエル そんなにやる気に満ち溢れた方が入ってきてくれるなんて、迎える立場の団員さんたちも大喜びだったんじゃないですか。

出口三崎上町地区分団長 大隅さんは、今や第7分団きってのムードメーカーです。(笑)

元々いた分団員たちも、男性だからとか女性だからという感覚はすぐになくなって、「大隅さんだからできること」が第7分団にとってはもう欠かせなくなっています。

ダニエル 私もこの前、全国消防操法大会に出場された女性団員さんとお会いする機会があったのですが、操法大会に出場されるだけあって、皆さんとてもパワフルでした。

今はまだ女性がお一人ということですが、操法大会には出場されていないですかね。

秋本団長 いえ、実は、今年の10月に開催

された三浦市消防操法競技大会にもポンプ車の部で4番員として出場しました。

そして、個人賞を獲得し、第7分団の優勝に貢献されました。

大隅さんは機関員だから大会会場までの行き帰りも颯爽とポンプ車を運転していましたよ。



ダニエル 男性と一緒に出場されたということですよね？

秋本団長 はい。去年は大会の手伝いをしてくれていたのですが、今年は選手として出場したいと手を挙げてくれました。

操法の選手としてもとても期待しています。

ダニエル それはすごいですね！

初めての女性団員さんが入団されて、新しい歴史が作られたわけですがけれども、今日お集まりいただいた皆さんがどういっかけて消防

団に入られたのかも気になります。

秋本団長 やはり、ある程度の年齢になれば入るものだという意識を持っている人が多いと思います。私は祖父、父と消防団に入っていて、父も消防団長でした。私のように家族で代々消防団員をしている人は三浦市では珍しくありません。



清水初声地区分団長 私も祖父と父が消防団員でした。

高校を卒業して働き出した頃に、分団の中で退団する人が出てくるとそろそろ自分の番だなどわかります。

同級生もその年代でどんどん入っていくので、私も自然に入団していました。

伊藤副団長 清水分団長のお子さんはまだ幼稚園に通っているのですが、もうすでに消防団に入る気になっていて、「パパ、サイレンが鳴ってるよ！」と教えてくれるそうです。(笑)

ダニエル それは将来が楽しみです！入団することが代々続く伝統になっているというのが日本の消防団のおもしろいところでもありますよね。

若い団員さんも多いのではないかと思います。平均年齢は何歳くらいですか。

鈴木南下浦地区分団長 34.6歳です。私は20歳過ぎてから入団しましたが、18歳になってすぐ入る人もいます。私の分団では特に農家が多く、早いう

ちから仕事をすることもあってか、消防団にも早く入る人が多いです。



ダニエル 若い人が自然に入ってくれるというのも充足率ほぼ100%を維持している秘訣なのでしょうね。

女性団員も増えてほしい

ダニエル 今は、女性の団員さんはお一人かもしかかもしれませんが、これから人数が増えたらもっと楽しみになりますね。大隅さんやこれから入団する女性団員さんにはどういう活動をしてもらおうと考えていますか。

秋本団長 都市部の消防団では、女性団員は広報活動や防災指導などをされている印象がありますが、三浦市では操法はもちろん、火災出動や、操法訓練への参加も多いと思います。

大隅さんの場合、もちろん広報でも活躍してくれると思いますが、女性だからといって活動を制限するのではなく、実働部隊としても頑張ってもらいたいです。

ダニエル これから女性団員さんがどんどん増えて活躍して行ってほしいですね。

大隅さんがんばってー！

三浦市の防災計画について

ダニエル 先日、台風第19号が勢力を保ったまま上陸しましたが、こちらは大丈夫でしたか（取材日は11月18日）。

藤田課長 実は台風第19号よりもその前に来た台風第15号のほうが被害は大きかったです。

三浦市内では老朽化した建物が全壊するなど、風による被害が多数出ており、最大瞬間風速は41.7メートルと、市の観測史上第一位を記録しました。

また、風の通り道を示すように、道路に沿って建物が損壊していたことから、小規模な竜巻も起きていたと推測されるような状況でした。

一方で、三浦市内には大きな河川が無いので、今回の台風第19号の際に各地で見られたような雨による被害というのは目立ちませんでした。

こうした台風のとくにも、消防団の方が警戒に出ていく中でいろいろと情報をくださったのでありがたいです。

板倉副団長 台風第15号のときには特に港町の被害がひどかったです。私の家も屋根がめくられましたし、近所のおうちは屋根が飛んでいきました。三浦市内では、台風でここまでの被害が出ることは今まであまりありませんでした。

伊藤副団長 農業や漁業に従事している団員は、自然災害が起きると、農作物や水産物、設備などに被害が出ていないかと、本業の方の心配



をしながら消防の仕事に従事しなければならないこともあります。今回の台風でも、農業に従事している団員が、農作物やたい肥小屋、農機具などがだめになってしまったにもかかわらず、倒木があった道の安全確保のため出勤していました。

ダニエル なるほど。風の被害が目立ったのですね。ほかに三浦市内で心配される災害というのは何かありますか。

藤田課長 三方を海に囲まれているので、台風が来て、満潮時刻に重なると高潮が心配されます。昨年高潮警報が出たときには城ヶ島地区に海水が入ってきていて、店舗がほとんど損壊するような被害もありました。

ダニエル 風害だけでなく沿岸部特有の高潮の被害も心配ですね。

また、三浦市は、首都直下地震による被害も心配でしょうし、海に面していますから、南海トラフの巨大地震の想定では、津波も予想されているのではないのでしょうか。

そういった大規模な地震を想定した対策などはとられていますか。

藤田課長 地震が起きた場合に、三浦市で最も大きな被害が出ると予想されるのが津波によるものです。震度は他の地域に比べて低い数値になるといわれていますが、津波は最大10mの高さになると予想されています。

そこで、津波警報が出たときには、東日本大震災のときもそうでしたが、消防団の方に津波の状況を監視していただくようお願いすることになっていて、もうすでにそういう場合の分担の計画は出来上がっています。

さらに、毎年消防署と消防団の合同で大地震を想定した図上訓練を実施しています。

ダニエル 地震や津波はいつ来るかわから

ないので、備えが重要になってきますよね。

私も少し市内を散歩してきたのですが、標高の表示が町中にありましたね。東日本大震災の津波でも、沿岸部の地域では平地まで何kmも波が来ていましたが、三浦市も海が近いので、どこまで逃げたらいいかというのを意識するのはすごく大事ですね。

藤田課長 東日本大震災以降そういった案内をつけるようになりました。実際に東日本大震災のときにも、住民の方に高いところへ避難していただくよう消防団が呼びかけていました。

ダニエル 大きな災害は来ないに越したことはないですが、必ず来るとして対策を打っておくことはとても大事ですよ。



公務災害防止のための取組

ダニエル 災害時における公務災害防止、平常時の訓練中の公務災害防止、対策はいろいろあるかと思いますが、どんな取組をされていますか。

秋本団長 日中、地元で仕事をしている団員は特にそうですが、火災などが発生すると、畑など今いる場所からそのまますぐ駆け付けなくてはという意識が強いのか、装備が十分でないまま出動してしまうことがありました。そのようなときはけが人が出るのではないかと心配になります。

装備を万全にしてほしいということは常日頃から呼びかけていますね。

また、操法訓練を常日頃から行っているので、訓練で技術が向上することで、非常時でも、平常時でも、けがにつながるような危険な行動をとらずに冷静に活動できていると思います。

ダニエル しっかりと消火活動をするためだけでなく、けがを防ぐためにも操法訓練は欠かせないのですね。

慌てて出動されるようなので、車の事故なども心配です。皆さんなかなか自分の安全を確保するところまで気が回らないかもしれませんけれども、これからもけがなく、健康で元気に活動していただきたいなと思います。

最後に、三浦市消防団について、PRをお願いします。

秋本団長 なんととっても、私たちの強みは参集がかかったときの初動が早いことと、それから、消火活動における技術力が高いことです。これらについては、広域化でお世話になっ

ている横須賀市消防局の方も感心されていて、私もすごく誇らしく思いますし、地元で働いている団員が多く、地元に貢献しようという気持ちの強い三浦市消防団の良さが表れていると思います。

これからもこの強みを生かし、地域防災のリーダーとして消防団活動に励みたいと考えております。

対談を終えて

三浦市は何度か訪れていますが、以前よりも観光客が多いように感じました。東京からも気軽に行くことができ、みどころいっぱい三浦市の魅力が皆さんに伝わっているようでうれしく思います。三浦市消防団は地元で働く方も多く、家族で代々消防団員をしているなど、伝統的な部分がありながら、若い団員が多く、女性団員も入団するなどとても活気がありました。三浦市消防団の皆さんの益々のご活躍をお祈りいたします。 (ダニエル・カール)

